

第2次世界大戦と芦屋 ～戦時下の教育・くらし～

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

芦屋と平和学習

問い合わせ 学校教育課 ☎38-2087

平和を願い、被爆アオギリの苗を小学校校庭そばに植樹



被爆アオギリの苗を校庭のそばに植樹(打出小学校)

昭和二十年八月六日午前八時十五分、人類史上初の原子爆弾が広島市中心部の上空約六〇〇mで炸裂しました。強烈な熱線と爆風、放射線により、街は一瞬のうちに破壊され、約十四万人もの生命が奪われました。爆心地から二km以内のほとんどの建物も全焼し、多くの樹木も焼き尽くされましたが、被爆の惨禍を生きた樹木や、焼け焦げた樹木の枝から再び芽吹いた樹木が、現在でも残っています。

は、震源地から約一・三kmの広島運信局の中庭で被爆し、熱線と爆風で幹の半分が焼けてえぐられたものの、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。昭和四十八年に広島市の平和公園に移され、この木に平和への思いを託す人たちが種をとり、全国各地に二世・三世のアオギリが植えられています。

委員会から被爆アオギリの苗木が贈られ、各校では児童の手で大切に校庭のそばに植えられました。市民の手で育てられ、児童たちの手で芦屋に植樹された二本の苗木は、これからも「平和を愛する心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えていくこととしてい

平和記念公園の被爆アオギリ

今年の市立小・中学校の修学旅行先には、小学校八校のうち三校が広島を、中学校三校はすべて沖繩が選ばれていました。六月に実施されたこれらの旅行で、子どもたちが何を、何を学んできたのか、子どもたちの感想や写真を紹介するとともに、世界平和への祈りを捧げたいと思います。

沖繩への修学旅行で学んだ「戦争の惨禍と平和への思い」

市内三中学校の三年生は、五月から六月にかけてそれぞれ二泊三日の予定で沖繩へ修学旅行に行きました。各校では、それぞれ旅行について事前学習を行いました。帰校後、沖繩で学んだことを、山手

中学校と潮見中学校では、壁新聞にまとめて掲示。精道中学校では、平和宣言にまとめました。今回は、その中の「平和宣言」の一部を紹介しました。

「沖繩は、日本で唯一の地上戦が行われた場所であり、多くの犠牲者を出したこと、その中でも、集団自決や親族友人同士で殺し合うなどという事が起きてしまったと聞いた時は、とてもびっくりしました。このような事実を目の当たりにして、戦争とは全てを壊して大きな傷跡をつけるものであり、人の自由を奪うという何の利益もないものなんだ」と思いました。人々は生きのびたいがために、このガマに入って来たというのに、なぜ、集団自決と命を落とす必要があったのでしょうか。

「原爆の子の像」に千羽鶴と「平和への祈り」を捧げました



平和記念公園・原爆の子の像前(岩園小学校)

今回の修学旅行では、三校それぞれに、原爆の子の像の前で「平和の集い」を行い、全校生が平和への願いを込めた折り鶴をお供えしました。また、平和公園内の碑めぐりのほか、被爆体験談を聞いたり、平和資料館を見学するなど、貴重な学習ができました。各学校に戻ってから、修学旅行での経験を全校生に報告するなど、さまざまな試みが行われました。

「打出小学校での試み」平和公園を訪れた外国のかたたちと、英語活動の一環であるピースメッセージ(メッセージカード)を交換。被爆アオギリの苗を植樹(岩園小学校児童の感想)原爆資料館見学では、原爆が落とされた理由と原爆の大きさなどが分かりました。これらを見て、私は原爆がよくない、なくした方がよいという気持ちになりました。被爆者が亡くなった一人の子、サダコさんと折り鶴などについて、話し合いました。

「戦争は一度としてほくなくい、戦争は二度と戦争を二度としないことを目標としたいです。」(宮川小学校報告会)戦争をする、何年たっても治らない二つの深い傷がある。一つ目は体に残った深い傷、二つ目は心に残る傷。そのほか、戦争や原爆の恐ろしさ、被爆者が亡くなった一人の子、サダコさんと折り鶴などについて、話し合いました。

「戦争は日本でも唯一の地上戦が行われた場所であり、多くの犠牲者を出したこと、その中でも、集団自決や親族友人同士で殺し合うなどという事が起きてしまったと聞いた時は、とてもびっくりしました。このような事実を目の当たりにして、戦争とは全てを壊して大きな傷跡をつけるものであり、人の自由を奪うという何の利益もないものなんだ」と思いました。人々は生きのびたいがために、このガマに入って来たというのに、なぜ、集団自決と命を落とす必要があったのでしょうか。

読谷村チビチリガマで語り部の話を聞く(潮見中学校)

戦時下での市民生活

戦争の長期化によって、市民生活は、国民精神総動員運動のもとに、貯蓄増進・国債消化協力をはじめ、日常に必要な物資の供給も困難となり、昭和十五年七月には、精道村役場に配給業務を担当する、産業課が新設されました。また家庭用燃料などの配給は、いわゆる、隣組の隣保組織が活用されました。

昭和十六年から米・麦・食料油・酒類・卵・パンなどの統制が始まり、みそ・しょうゆ・塩・味噌・青果物・魚介類・錆物製品なども配給制となり、十九年には休閑地の利用も進められ、食糧事情は窮乏状態となりました。戦時体制の下、市の自治制も失われ、昭和二十年八月五日の空襲で焼失するまで続けました。

市民がつづる「芦屋の四季・70選」

市では、市民の皆さんの写真でつづった市制施行70周年記念写真集「芦屋の四季・70選」を発行・販売しています。記念写真集「芦屋の四季・70選」は、下記で購入していただけます。

遠来の訪問者などに、芦屋を紹介するガイドブックとしてもご利用ください。

■価格 1,000円
■発売所 行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

「芦屋シティグラフ好評発売中！」

市では、「芦屋シティグラフ」を発行・発売しています。本誌では、芦屋の自然や歴史、芦屋ゆかりの芸術・文学・文化など、写真・地図・イラスト入りで、わかりやすく掲載しています。

芦屋の紹介などに、ご利用ください。

■価格 300円
■発売所 行政情報コーナー・ラポルテ市民サービスコーナー

問い合わせ 広報課 ☎38-2006

夏休みファミリーミュージカル「白雪姫」

心いっぱい、幸せの花を咲かせましょう！テーマは「約束」。定評ある劇団東少の名作「白雪姫」を、ご家族でぜひご観覧ください。

■日時 8月28日(日)午後2時～4時(1時30分開場)

■会場 ルナ・ホール(全席指定) ■出演 沢井美優・沢田亜矢子・進藤学ほか ■入場料 一般2,500円(当日3,000円)・中学生以下1,000円(当日1,500円) ■チケット発売所 市民センター事務所・市役所売店・ローソンチケット(Lコード51602)

問い合わせ 市民センター ☎31-4995

■戦時下の教育

昭和16年に、小学校が「国民学校」と改称されてからは、いっそう軍国主義教育の風は強くなりました。防空訓練や勤労奉仕(さつまいもづくり等)の行事も加わりました。「芦屋今むかし」より



精道国民学校(現・高梁市)での3年生児童と教師

昭和四十六年まで、本市の市立小学校は精道明治五年開校(宮川昭和二年開校)・山手昭和九年開校(岩園昭和九年開校)の四校だけでした。昭和十六年四月、小学校が、国民学校と改称され、いっそう軍国主義の風潮が強化されていく中、十九年二月にはみそ汁給食・戦時学校給食が開始され、翌年三月まで続けました。またこのころの運動会も戦時色一色で、男子の体育の授業でも棒刺などの訓練(写真)などが行われました。

■児童疎開 昭和二十年四月から空襲が激しくなり、六月には精道・宮川の両校に集団疎開の指令が出されました。田舎に縁故のある児童は個人疎開、また縁故のない三年生以上の児童は集団疎開することになりました。疎開先の岡山県との交渉の結果、六月二十四日、貨物列車に分乗して精道国民学校児童二百一十三人は上房郡高梁町現高梁市へ、宮川国民学校児童二百七人は真庭郡落合村へそれぞれ疎開することになりました。



疎開先から精道国民学校に帰ってきた児童たちは、燃え落ちた校舎を前に立ちすくんだ

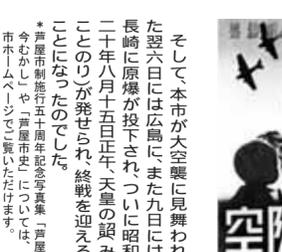


山手小学校校舎の擬装



受け入れ先の「集団疎開組」

集団疎開中は、地元児童らと学習に励むほか、燃料の確保めたり、食料不足を補うために魚を獲ったり、さつまいもの栽培をしたりしました。一方芦屋では、昭和二十年八月六日の空襲で、両校の木造校舎が焼失しました。そして、ついに八月十五日の終戦を迎えます。なお、疎開先から児童たちが帰ってきたのは、この年の十月でした。



空防庭家

CATV 広報番組ガイド

放送時間(15分)	内容
8:30	オープニング 芦屋中央公園から
12:00	トピックス 日本水ロケットコンテスト 近畿地区予選会
16:00	高齢者のつどい
18:15	特集 交通ルールを守って安全に!
22:45	お知らせ 芦屋サマーカーニバル
※DVD 貸出可	市民マナー条例
エンディング	市制70周年記念写真集「芦屋の四季」から

■アナログ放送は9ch(7月24日まで)、地上デジタル放送は11chでご覧ください。
■番組に関する問い合わせ 広報課 ☎38-2006 ■CATV全般に関する問い合わせ 株式会社ケーブルネット神戸芦屋(J-COM)カスタマーズセンター☎0120-13-8160

7月後半